



第 6 代 代表幹事退任のご挨拶



九州大学 生体防御医学研究所 特任教授

伊藤 隆司

去る 6 月の第 18 回年会をもちまして、3 年間務めてまいりました代表幹事の任を退きました。在任中は、木村副代表幹事、畑田前庶務委員長、金田庶務委員長、近藤広報委員長、眞貝賞等選考委員長をはじめ、多くの皆さまに支えていただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。また、この 3 年間にそれぞれに特色ある素晴らしい年会を開催してくださった油谷第 16 回年会長、立花第 17 回年会長、沖第 18 回年会長にも、改めて感謝申し上げます。

代表幹事就任にあたり、私は本ニュースレターに「若手のみならず女性も十二分に活躍できる研究会を目指したい」と記しました。そのような思いでおりましたので、長年エピ研にご尽力くださった多田幹事のご逝去は、誠に痛恨の極みでありました。しかしながら、浦幹事に第 19 回年会長をお引き受けいただき、初の女性年会長が実現したことは大きな前進であったと思います。さらに、藤先生、服部先生、鵜木先生が新たに幹事に選出され、木村新代表幹事のもとで斉藤先生が副代表幹事に就任されました。こうした流れが今後も継続し、女性研究者の活躍が明確に見える研究会として、エピ研がいつそう発展していくことを願っております。

エピ研はまもなく設立 20 年を迎えますが、近年は会員数や財政面において厳しい状況が続いています。エピ研の魅力向上には年会以外の活動の充実が重要ではないかと私は思っております。そこで中尾前代表幹事からのお申し出を契機に、実用的なツールやデータベースを紹介するオンライン・リソースセミナーを 2 回開催いたしましたところ、幸いにも多くの会員の皆さんにご参加いただくことができました。これをさらに発展させて、賛助会員企業にも魅力ある形で運用すれば財政状況の改善にもつながるのではないかと考えて、近藤広報委員長と金田庶務委員長に具体的な企画の立案をお願いいたしました。両先生のご尽力の成果が、本年 7 月から始まった第 1 回が開催されたエピ研ウェビナーです。この活動が会員の皆さんのご協力の下に所期の目的を達成し、研究会のさらなる活性化と発展に貢献してくれることを期待しています。

エピジェネティクス研究は飛躍的に進展し、いまや生命科学のあらゆる分野に浸透したといっても過言ではありません。そういう時代になっても、異なるバックグラウンドを持つ研究者がエピジェネティクスの全体を俯瞰して議論を深め合える場であることこそが、エピ研の変わらぬ存在意義であり最大の魅力だと思います。今後もエピ研がユニークで活力ある研究会として発展していくことを心より祈念いたしております。



第7代 代表幹事就任のご挨拶



東京科学大学 総合研究院
細胞制御工学研究センター 教授
木村 宏

この度、第7代日本エピジェネティクス研究会代表幹事を拝命いたしました。来年（2026年）は、エピジェネティクス研究会が発足して20年となり、2027年の年会は20回目となります。エピジェネティクス研究会には設立時から参加させていただいておりますが、このような節目の時期に大役を仰せつかることになり、身の引き締まる思いです。3年間よろしくお願いいたします。

エピジェネティクス研究会が発足したときは、エピジェネティクス研究が広がっていく時期で、DNAメチル化やヒストン修飾の基本的な制御機構やそれらの解析技術などが確立途上にあり、さまざまな生物や現象を研究対象とする研究者が新しい情報を求めて会に結集してきました。20年近く経って、エピジェネティクス制御に働く化学修飾の基本的な役割が明らかになるとともに、基盤的な解析技術も確立し、様々な細胞種でのヒストン修飾、DNAメチル化、クロマチン高次構造などに関する情報が急速に蓄積してきました。しかしながら、エピジェネティクスの全貌が明らかになったわけではありません。逆に、エピジェネティクスが多くの生命現象に関わることがわかり、また、複雑であることから、その理解がますます重要になっています。解析技術に関しても、細胞集団のバルクでの解析から単一細胞解析へ、単離された細胞の解析から空間解析へと高度化が急速に進んでいます。エピジェネティクスやエピゲノムに関する膨大な情報があふれ出る現在であるからこそ、関連分野の研究者がエピジェネティクス研究会に結集し、直接議論を行うなかで情報を交換・整理することは、個々の研究者にとって重要であるばかりでなく、日本のエピジェネティクス研究の発展にもつながると思います。

エピジェネティクス研究会の会員数は、初期には右肩上がりが増えていきましたが、現在は一定の落ち着きを見せています。年会費に関して、設立時から一般会員は3000円、学生は1000円という比較的低価格で運営されてきましたが、近年の物価高もあって、2026年度から一般会員の年会費が5000円に改定されました。会費が上がった分、より充実した活動を行っていきたいと思います。伊藤隆司前代表幹事や近藤豊広報委員長をはじめとした広報委員会のご尽力により、今年度からWebinarが始まりました。このような企画や年会などを通じてエピジェネティクス研究の発展に尽くしたいと思います。



情報を求めています！！

研究員・ポストドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いいたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(委員長) 近藤 豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)
佐渡 敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
沖 昌也 (ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)
一柳健司 (ichiyana@agr.nagoya-u.ac.jp)
服部奈緒子 (naoko.hattori@gunma-u.ac.jp)
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学内
庶務担当幹事：金田篤志、担当：江島加余子
住所：〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL: 043-226-2039
E-mail: jse-jimukyoku@ml.chiba-u.jp